

男女共同参画情報誌

Vol. **11**
Spring

リポる

さっぽろ

特集 女性研究者と男女共同参画

インタビュー
男女共同参画リーダーの会
『基本的・一般的な活動』グループ



『女性研究者と男女共同参画』

森 美和子さん

(北海道医療大学客員教授/北海道大学名誉教授)

北海道大学医学部薬学科卒業。企業での勤務を経験したのち、同大学院において薬学博士学位を取得。有機合成化学、有機金属錯体化学を研究分野とし、2004年には、日本薬学会賞受賞。これまでも多くの賞を受賞している。同年、北海道大学を退官され、現在は、北海道医療大学客員教授としてご活躍されている。



—昨年私は30年間勤めた北海道大学薬学部を定年退官した。

私の所属は薬学部で専門は有機化学であるが、日本では理系の女性研究者は極めて少ない。いや本当は日本に限らず世界的にも極めて少ない。

私が教授になったとき(1992年)、女性の研究者は確か北海道大学全体で3%、女性の教授は1%以下だったと記憶している。今では少しは増えたかもしれないが、理系の教授に限ると殆ど増えてはいないだろう。1999年男女共同参画社会基本法が国会をとったとき、それを受けて国立大学の女性教授を20%にしようと言い出された。周りの女性研究者の総数を見ても20%もないのにと苦笑するよりなかった。目標値を出すことにもそれなりの意義はあるが、女性が研究を続けていくさまざまな環境を整えない限り後に続く人は出て来ない。ここで私の研究生生活を振り返ってみる。

20代(1961-1971年)：北海道大学薬学部の有機化学を研究する講座で卒業研究を行い、その後東京にある製薬会社の研究所に就職した。自分で何も出来ないことを知りもう一度勉強し直そうと、もとの講座の大学院へ戻ったときは同期の人より3年も遅れていた。大学院の博士課程の1年のときに結婚したが、その後大学紛争でほとんど昼間は実験が出来ず、夜中の実験で学位論文をまとめた。30歳で博士課程を修了、学位を習得。当時は女性研究者の就職は全くなかったけれど、たまたま同じ講座の女性の助手の方が、ご主人の勤務の関係で辞められたので、後任にと言われた。非常に複雑な気持ちだったが、採用して頂いた。

30代(1971-1981年)：研究生生活をスタートしたが、30歳で長女を出産。2月の産休明けに、生後42日目の子どもを抱いて雪の中を歩いて初めて保育所へ。その保育所も親の手で作った民間の小さな一部屋。2年後、次の子どもがおなかにいるとき一念発起して車の免許を取るべく教習所へ。

免許証を手にしたときは出産間近、よく流産しなかったと後で言われた。34歳で長男出産。全く芽のでない研究生生活の苦しさを3年間味わう。30代は研究者にとって最も大事な時期。助手の仕事とは自分の実験、文献の検索、考察、論文執筆新着論文のチェック、学生の指導、会議、セミナー、学会の準備等と無限の時間を必要とする。特に実験をはじめると最後まで見ていたい気持ちと保育所のお迎え時間とのせめぎ合いで、かけた反応の終える時間をタイマーに託して帰る日々。学生とのDiscussion^{ディスカッション}を打ち切って保育所に向かう後ろめたさ。それに加え母の看病等、毎日薄氷を踏むような生活。30代の後半にやっと少しずつ結果が出て、日本薬学会の奨励賞をいただく。こんなやり方でも研究を続けられるかもというかすかな手応えを感じる。当別の大学に勤務する夫の手を当てにすることは出来ず、子どもの病気のとき、そして国内外の出張の度に子どもをどこに預けるかで頭を悩まし、周りの方々の手を借りて研究を続ける。「継続は力なり」と念じて仕事に励む。この

時期はまだ研究指導をしていた女子学生の就職は全くなく、優秀な女子学生が就職を決めるとき初めて彼女らは男女差別を味わい、何度一緒に涙したことか。

40代(1981-1991年)：教授の退官に伴い、次の新しい教授は私より勿論年下のものすごく優秀な男性。この時期に昨年ノーベル化学賞を受賞されたアメリカのGrubbs教授のもとに留学。3か月とはいえ学齢期の子どもを夫に託して実験三昧の毎日に息をつく。47歳で長い助手生活を終え助教授にして頂いた。同期の男性はとっくに昇進し、中には教授になった人も多かった。助教授は仕事をしていくうえでは一つのポジションであり、講義も出来るし、新しい研究生活が広がる。しかし教授に昇進出来ないのは自分の力故か、女性だからかと悶々と苦しむ毎日。1985年に不備な点はたくさんあったけれど男女雇用機会均等法が国会をとって女子学生も会社の就職試験を受ける機会が得られるようになった。試験を受けると女子学生は優秀だから会社も惜しいと考え、少しずつ採用してくれるようになり、女子学生の未来にかすかな灯がともってきた。

50代(1991-2001年)：49歳のとき「女性研究者に明るい未来をの会」から猿橋賞をいただく。きっとこれがきっかけなのだろう、50歳でやっと教授に昇進し、自分の研究室をもつ。子どもの手も離れ夫と二人の研究生活に戻る。女性研究者の研究生活実態調査によると女性の場合、論文の数は50代が最も多いと言う。それは女性は教授への昇進が遅く、50代になってようやく場を得る場合が多いことと、それまで鬱積したものを吐き出すがごとく研究に打ち込むからと考えられている。私もご多分に漏れず50代から自分のやりたい研究に着手し、自分の時間のすべてを研究生活に使える幸せを噛みしめ、朝から夜遅くまで仕事に没頭し、それなりの成果がではじめた。講義、研究指導、論文作成等の日常の仕事のほかに国内外の学会参加、道の審議会等種々の仕事に追われる毎日。1997年の男女雇用機会均等法の改正を期に女子学

生の就職の問題はかなり改善され、大学院を出た女子学生はそれまで会社に就職出来ないと言われてきたが、やっと扉が少し開いた。博士課程を出た28歳の女子学生も男子同様会社に採用された。

60代(2001-2004年)：朝は4時に起きて論文を書いてから大学に行き、夜遅く帰って夫が用意してくれた夕食をとる生活。忙しい生活は続いたが、これまでの成果に対して2001年に有機合成化学協会賞、秋山財団賞を、2004年に薬学会賞をいただき、その年、約30年余りの大学での研究生活を終えた。現在北海道医療大学の客員教授。薬学部の1年生の講義の一部を担当させて頂き、新たな勉強に取り組む。

私が教授になってからさまざまところから講演を依頼された。1999年、ある会社の研究所で講演を頼まれ、終わった後に研究所の見学をさせていただいた。会社の研究所には通常それほど女性の研究者は多くはない。ことに私の所属する化学と言う分野は男性の研究者の中にごくごくわずかに女性がいると言われる3Kの職場。それなのに結構たくさんの女性の研究員が働いていた。「なかなか良いことですね。たくさんの女性が働いて」と、思わず口にする、案内して下さった方(もちろん男性)がやや口ごもりつつ「ああ、あの人は派遣なんですよ」という。「派遣研究者？」一瞬私には意味が分からなかった。「研究者は通常一生をかけて何かを追求し、成長していくもの、あちこちに派遣される研究員はどうやって育てられていくのだろうか」と思った。その後たくさんの派遣会社から研究員を求めるメールが無差別にどんどん送られてくるようになって、やっと世の中が派遣研究員を求めていることが分かった。そしてたくさんの会社が派遣研究員を雇い始めていることも知った。研究者は育てるもの、育つもので、出来上がった研究者など存在するわけではない。効率を求め、すぐ目の前の利潤を追求していく今の社会の恐ろしさ、これは恐らく何も研究者のみの問題ではない。既に日本の至る所で目先の効率と利潤を追求し、たくさんの派遣社員

を生み出している。この国はいったいどこに向かおうとしているのだろうか。人は社会の中で育てられていく。人を育てていくというゆとりを失っていくこの社会の住み難さ、生きにくさ、そのしわ寄せが再び形を変えて女性に降り掛かってきて

いる。これが今の少子化につながっているのは間違いない。この世の中を変えていくのは容易なことではない。でも私たちは先輩の方々がそうしてきたように、身近な一つひとつの問題に粘り強く声を上げていくのが大事なことなのであろう。

“情報センター” から関連図書のご案内

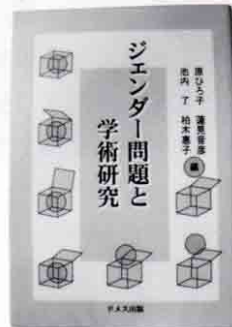
情報センター（札幌エルプラザ内）では、男女共同参画、消費生活、市民活動、環境に関する図書、資料等を扱っています。図書やAV資料の貸出の他、インターネット検索もできますので、どうぞご利用ください。



キャリアを拓く —女性研究者のあゆみ

今なお男性優位の学術の世界で、熱い志で自分の道を拓いてきた自然科学、医学、人文科学、社会科学の諸分野の女性研究者25人が、自らこれまでのあゆみを振り返り執筆。後に続く女子学生に希望と勇気を与える書。男女共同参画実現をめざすプロジェクトによる熱い編集。

著者名 柏木恵子・国立女性教育
会館女性研究者ネットワ
ーク支援プロジェクト/編
出版社 ドメス出版
出版年 2005



ジェンダー問題と学術 研究

ジェンダー視点からの学術の再検討と女性研究者の環境改善を中心に、わが国における男女共同参画社会の確立に結びつく学術研究のあり方をさまざまな角度から検討。日本学術会議「ジェンダー問題の多角的検討」特別委員会の取り組みの成果をより広く読者に提供する報告の書。

著者名 原ひろ子・蓮見音彦・
池内了・柏木恵子/編
出版社 ドメス出版
出版年 2004



親愛なるマリー・キュリー —女性科学者10人の研究する人生

科学のさまざまな領域で大きな業績をあげ、国際的に活躍している女性科学者10人が、自らの研究生活を振り返り、後に続く人たちに温かい助言とエールを贈る一冊。

監修 猿橋勝子
出版社 東京図書
出版年 2002



20世紀のすてきな女性たち(3)科学に魅せられて

—マリー・キュリー 保井コノ
レイチェル・カーソン 柳澤桂子

20世紀に活躍した(活躍中の)女性たちを紹介したシリーズ。21世紀に生きる子どもたちに伝えていきたい人物ばかりです。今回紹介する3巻は、科学分野の女性たちの物語。

著者名 佐藤一美・山脇あさ子・
上遠恵子・藤原一枝/著
出版社 岩崎書店
出版年 2000

札幌市 男女共同参画推進室 からのお知らせ Information

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目
電話:(011)211-2962 FAX:(011)218-5164
ホームページ: <http://www.city.sapporo.jp/shimin/danjo/>

札幌市男女共同参画センター貸室料金が変更になります

男女共同参画センターの貸室料金は、平成18年4月1日以降の入金分から女性料金区分を廃止し、下記のとおり変更します。

「札幌市配偶者暴力の防止及び被害者の支援に関する方針」を策定しました

札幌市では、このたび配偶者等からの暴力(ドメスティック・バイオレンス=DV)に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、「札幌市配偶者暴力の防止及び被害者の支援に関する方針」を策定しました。今後は「方針」に基づいて、DVの防止と被害者の救済・支援を積極的に進めていきます。

「方針」には、配偶者からの暴力は、犯罪となる行為を含む重大な人権侵害であるという観点から、「女性に対する暴力の根絶」を目指すことを基本的な方向として掲げ、その下に配偶者暴力の防止と被害者の支援に関する「重点目標」(5項目)とそれを推進するための「重点施策」(31項目)、「具体的取組」(68項目)を体系的に盛り込んでいます。

また、これらの施策や取組を進めるに当たっては、DV被害者が置かれている現状や一日も早い救済を念頭に、実施期間を短期(平成18~20年度)と中長期(平成21年度以降)に分け、実施可能なところから順次検討を進め、実施します。

種別	時間区分	定員	午前	午後	夜間	全日
			9:00~12:00	13:00~17:00	18:00~22:00	9:00~22:00
ホール	全体	320	12,100円	16,200円	16,200円	35,600円
	半面(A、B)	各160	4,700円	6,300円	6,300円	13,800円
	出演者控室1		1,100円	1,500円	1,500円	3,300円
	出演者控室2		900円	1,200円	1,200円	2,600円
	研修室1	24	1,500円	1,900円	1,900円	4,200円
	研修室2、3、4	各24	1,300円	1,800円	1,800円	3,900円
	研修室5	24	1,600円	2,100円	2,100円	4,600円
大研修室	全面	90	5,200円	7,000円	7,000円	15,400円
	区分A、C	各30	1,700円	2,300円	2,300円	5,000円
	区分B	30	1,800円	2,400円	2,400円	5,300円
中研修室	全面	72	3,300円	4,400円	4,400円	9,700円
	区分A、B、C	各24	1,100円	1,500円	1,500円	3,300円
	和室1、3、4	各21	800円	1,100円	1,100円	2,400円
	和室2	17	700円	900円	900円	2,000円
	和室5	21	900円	1,200円	1,200円	2,600円
	洋和裁室	24	2,000円	2,600円	2,600円	5,800円
	工芸室	36	2,700円	3,500円	3,500円	7,800円
	特別会議室	16	1,500円	2,000円	2,000円	4,400円
	OA研修室	20	1,900円	2,500円	2,500円	5,500円
	料理実習室	40	5,600円	7,500円	7,500円	16,500円
	健康スタジオ1	22	3,400円	4,600円	4,600円	10,100円
	健康スタジオ2	18	2,800円	3,800円	3,800円	8,300円
	音楽スタジオ1	30	2,200円	3,000円	3,000円	6,600円
	音楽スタジオ2	30	2,300円	3,100円	3,100円	6,800円

※別途増料金があります。詳細についてはお問い合わせください。

Interview

インタビュー

このコーナーでは、地域で男女共同参画社会を推進するための活動に取り組んでいる個人や団体にインタビューし、その活動内容をお伝えします。

今回は、札幌市男女共同参画リーダーの会の山口チツ子さんにグループの活動や男女共同参画についてお話を伺いました。

山口 ^{やまぐち}チツ子さん

(札幌市男女共同参画リーダーの会『基本的・一般的な活動』グループ)



Q. リーダーの会に参加したきっかけと「基本的・一般的な活動」グループを選択した理由を教えてください。

A. リーダーの会の前身である札幌市主催の男女共同参画サポーター事業を知り、参加したのがきっかけです。

そして、もっと男女共同参画について学び理解を深めたいと思い、リーダーの会に参加し、このグループを選択しました。

Q. 男女共同参画について学びたいと思ったきっかけはどのようなことですか

A. 現在社会人の娘が大学生のときに女性学の講義を受け、その話をしてくれました。私が思っていたことと共感できる部分があり、自分の思いと同じような考えの学問があることを知り感銘を受け、男女共同参画についても学びたいと思いました。

Q. 自分の思いとはどのようなことでしょうか

A. 私が育ってきた家庭では、「女の子らしくしなさい」と言われた記憶があまりありません。小学校に入るところには、電気の配線を直すことも普通と思ってやってきました。大人になってからその話をすると、「それは“男の仕事”」という意見が多く、当たり前と思っていたことが違っているのかな？と考えていたのです。

Q. そのような経験と現在の活動をとおして、感じていることはありますか

A. 家庭が一番小さな“社会”だと思っています。だから、家庭が子どもに与える影響はとても大きいと思います。親の何気ない言動が子どもに対して大きな影響を与えるのではないのでしょうか。

「男の子だから」「女の子だから」と決めつけるのではなく、一人ひとりの個性を大切にすることに気づき実行していくことが望ましいと思います。

Q. 最後にこれからの目標を教えてください。

A. リーダーの会をとおして、男女共同参画の分野にとどまらず、さまざまな活動をしている方々に出会うことができました。

これから出会う多くの方々に、学んできたことをどれだけ形にしていけるか、そしてそれ以前の問題としてまだまだ認知度の低い男女共同参画社会という考え方をどれだけ広めていくことができるかが課題だと思っています。

札幌市男女共同参画センターリーダーの会とは…

札幌市が市民主体の男女共同参画推進の取り組みとして、平成10年度より「市民自らがそれぞれの立場で自主的な活動を展開し、男女共同参画に関する意識の高揚を図ること」を目的に「札幌市男女共同参画サポーター事業」を開始しました。新たに登録したサポーターと既存のサポーターの中から希望者により誕生したグループが、「札幌市男女共同参画リーダーの会」です。現在「基本的・一般的な活動」「DV防止・被害者支援」「子どもの意識づくり」の3グループに分かれて活動をしています。

11.3%

(札幌市の大学の教員数のうち女性の割合)

札幌市の大学の教員数のうち女性が占める割合は全体の11.3% (表1)です。その割合は、職位が上がるほどに低くなっています。女性の教員数は増加傾向にあります。男性の教員と比べるとその差は大変大きいものです。また、教員の多くは、教育とともに研究を行う研究者でもあります。

女性の研究者が少ない理由を平成9年と平成14年で比較すると(表2)、「女性を受け入れる体制が整備されていない」という理由が減少していることから、少しずつではありますが職場において性別にとらわれず働ける環境が整備されてきているようです。

しかし、「出産・育児・介護等によって研究活動の継続が難しい」という問いに対して「はい」と答えた女性の回答率は上昇していることから、育児や介護は女性の仕事という意識がまだ高いのが現実ではないでしょうか。

性別に関わらず仕事と生活の両立ができ、その結果、一人ひとりの能力を十分に発揮することで次世代のことも

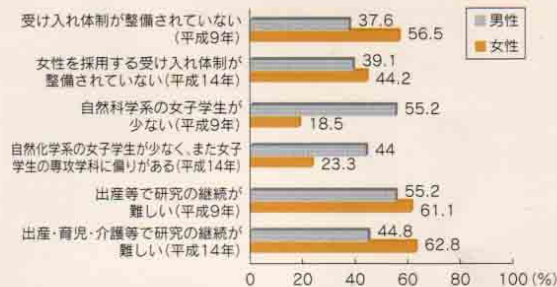
たちに希望を与えられるような環境を築きあげていきたいものですね。

【表1】札幌市の大学の教員数



備考：学校基本調査(平成17年)都道府県別教員数(本務者)の政令指定都市より作成

【表2】女性研究者が少ない理由



出典：内閣府「男女共同参画白書(平成17年版)」

相談室 Q&A

このコーナーでは、男女共同参画センターの相談窓口寄せられる相談内容を参考に、身近な問題解決についてご紹介します。

Q. 夫は「付き合いが多い」と言い浪費をしており、「俺の稼いだ金だ。お前にはやらない」と怒鳴り生活費をくれません。専業主婦で収入のない私は意見することができずいつも我慢をしています。これから先もこのような生活が続くことに不安を感じます。

A. それは不安ですね。夫婦が、お互いに協力をするということは「民法」(第752条、760条)にも定められていることです。気になるのは「俺が稼いだ金だ」と怒鳴り、生活費を渡さないその支配的言動です。あなたの夫は生活費だけではなく、生活の全領域に渡ってあなたに対して支配的なことはありませんか？

DVは身体的暴力だけではなくありません。経済的に縛り付けることも暴力です。暴力を振ることが目的ではなく、暴力で恐怖や不安を相手に与え、そして、相手を支配、服従させることが目的です。夫婦は対等なパートナーですから収入のある、なしは関係ありません。夫が「妻は従うのが当然」と考えているのであれば話し合いは無理ですし、これから先もあなたの不安は続くでしょう。

もし、このような状態が続くのであれば一人で悩ま

ず、市、区にある相談窓口を利用してください。また生活費については家庭裁判所での「婚姻費用分担」を申し立てることもできます。

札幌市男女共同参画センター相談窓口

新たな一歩を踏み出すきっかけとしてご利用ください。相談は無料です。

※平成18年4月より相談曜日、時間に変更となります。詳細はお問い合わせください。(平成17年度 相談日程です)

女性のための	総合相談	火 15:00~17:00 (第2火 18:00~20:00) 木 10:00~12:00	728-1225 (面接・電話)
	法律相談	金 13:00~15:00(要予約) (第2金 18:00~20:00)	予約電話 728-1222 (面接/一人30分)
	心とからだ相談	火 14:00~16:00(要予約) (第1~3火 精神・神経科医、心理士 第4火 産婦人科医)	予約電話 728-1222 (面接/一人50分)
	仕事の悩み相談	水 13:30~15:30 土 10:00~12:00	728-1227 (面接・電話)
男女の人権相談		月 10:00~12:00 水 18:00~20:00	728-1226 (面接・電話)

お知らせ

札幌市は、地方自治法（昭和22年法律第67号）及び札幌市公の施設に係る指定管理者の指定手続に関する条例（平成15年条例第33号）に基づき、札幌エルプラザ内の公共4施設（札幌市男女共同参画センター、札幌市消費者センター、札幌市市民活動サポートセンター及び札幌市環境プラザ）の管理運営に指定管理者制度を導入することとなりました。

それぞれの施設は、男女共同参画の推進、市民の消費生活の安定及び向上、市民活動の促進及び環境保全の促進という異なる設置目的を持つ独立した公の施設となっています。

指定管理者制度の詳細は、札幌市市民まちづくり局男女共同参画推進室のホームページ（<http://www.city.sapporo.jp/shimin/danjo/>）に掲載されています。

平成17年度札幌市男女共同参画センターの主催事業の一覧がホームページに掲載されています。一年間の講座の実施内容をご覧ください。さらに、主催事業の内容を冊子にした抄録集「あ、じゅんだ」を発行しております。

この冊子の原稿作成は、札幌市男女共同参画センターの“編集ボランティア”のメンバーが担当しております。ぜひご一読下さい。



主催事業が終了しました

事業検討会議

H18.1.25(水)



札幌市男女共同参画センターの平成17年度主催事業について、事業検討委員会の方々から意見と評価をいただきました。

男女共同参画セミナー「効果的な会議をするためのファシリテーション講座」

H18.1.30~2.13(毎週月曜日/全3回)

性別にとらわれることなく、一人ひとりの個性と能力を発揮できる職場づくりを目指して、グループに分かれて効果的な会議の方法について学び模擬会議を実施しました。



野呂瀬崇彦さん
(マネジメント・パートナーズ代表)

編集後記

今年の冬は雪が降るのが遅く、このまま積もらないのでは…と一瞬思っていました。しかし、昨年以上の大雪で、除雪の毎日でした。早く暖かい日がくるといいなと思いますが、最近“異常気象”という言葉をよく聞くようになりました。人も動物も植物も生きやすい環境になるために、自分にできることを探して少しずつでも実行していきたいと思っています。

〈お便りをお待ちしています〉

本誌へのご意見、主催事業、施設利用などに関するご意見をお待ちしています。はがき、封書、FAXで、住所、氏名、電話番号をご記入のうえ札幌市男女共同参画センター「りぶる さっぽろ」係までお送りください。

発行日 平成18年3月
発行 札幌市男女共同参画センター
(管理運営 財団法人札幌市青少年女性活動協会)
所在地 〒060-0808
札幌市北区北8条西3丁目 札幌エルプラザ内
電話 (011) 728-1222
FAX (011) 728-1229
ホームページ <http://www.danjo.sl-plaza.jp>